

テスト設計コンテスト OPEN クラス - アピールシート

※全体でA4縦 1 ページに収まるように記述してください。

		地域名	東京
チーム ID	S270607001	チーム名(ふりがな)	T門下生(ていもんかせい)

チーム紹介

- AGESE の「T 先生」に学ぶ門下生 4 人。所属部署・キャリア・ロールはそれぞれ違います。
 - ・飯沼 真一(テストエンジニア/発起人)現場目線
 - ・佐藤 友哉(QA コンサルタント)コンサル目線
 - ・皆川 夏実(テストエンジニア)現場目線
 - ・上田 和樹(テストマネージャー)マネージャー目線
- 同じ成果物を、違う目線で見ると。それがこのチームの強みです
- 足りない視点は AI ペルソナ 19 体に担ってもらい、人 4 人+AI19 体=計 23 の目線でレビューしました。AI もチームの一員です。

コンセプト

- “あるべき姿”の品質保証を、リソース制約を理由に妥協しない。AI で理想を実装する。
網羅的な成果物・完全なトレーサビリティ・理想的なレビュー体制は、これまで人的コストと工数の制約から「現実的な落としどころ」へ切り下げられてきました。本設計はその妥協を AI で解消しています。
- 高い品質とは「顧客のビジネスが成功すること」と考え、起点をビジネス要求分析に置いています。
- このコンセプトを、目的・構造・手段・体制の 4 つの柱で貫きました。
 - 柱 1 【Why】ビジネスにコミットするテスト
 - 柱 2 【What】発散と集約のテストアーキテクチャ
 - 柱 3 【How】モデル化された完全トレーサビリティ
 - 柱 4 【Who】AI で実現する理想のテスト体制

工夫点

- 柱 1 【Why】ビジネスにコミットするテスト
課題 → 施策 → ビジネスゴール → 成功の 6 つの鍵 → ビジネス要求 9 件、と一段ずつ導出しました。
だからどのテストケースも「なぜやるのか」に必ず答えられます。
- 柱 2 【What】発散と集約のテストアーキテクチャ
テスト要求 29 件 → (対象軸 × 条件軸) → テストアイテム 133 件 → (タイプ × リスク度 × 環境) → コンテナ 22 件。
網羅性は発散でつくり、集約で具体化を行います。
- 柱 3 【How】モデル化された完全トレーサビリティ
BR → UC → TRA/RSK → TIT → TAD → TCD → TSU/TCS → TDT の 8 層を、一意な ID で連結しました。
参照は上流 → 下流の一方方向だけ(前方参照禁止)。どの ID からでも上流の根拠と下流の影響を特定できます。
- 柱 4 【Who】AI で実現する理想のテスト体制
全ステークホルダーを AI ペルソナ 19 体として実装し、それぞれの専門の目線でレビューさせました。
ただし AI だけには頼りません。観点の設定と可否の判断は人間が行います(ヒューマン・イン・ザ・ループ)。